

イスカッションから得られた議論のまとめと、当日の参加者のアンケート結果から考察を行った。

C. 研究結果

当日の参加者は、65名で、内訳は、医療関係者 14名、がん当事者 28名、医療関係者かつがん当事者 3名、その他 20名であった。当日のパネル・ディスカッションの様子は「IV. 参考資料」の一部として本報告書末尾に添付した。

さまざまな議論が交わされたが、そのまとめとして、多様なプログラムの必要性とそれぞれのメリット・デメリットの把握、提供するプログラムの継続性、当事者グループ（患者支援団体）や医療者のそれぞれの得意とする分野についてのお互いの認知（知り合うこと）、そして同時に批判的な目を持ち合うことが、がんの負担軽減のためのプログラムやそのための当事者と専門家の協働のポイントとしてあげられた。

また当日の参加者からのアンケートの結果から、「当事者と専門家のパートナーシップのための課題・すべきこと」としてあげられた内容は、以下の6つに分類された。*注：（ ）内は、意見を出した人の立場

1) 視点を広げる、広く見る

・がん以外の患者会をみることで新しい視点（がん当事者、その他）

2) 質を担保すること

・レベル（質）を保った上での、患者（会）とのパートナーシップの必要性（支援団体）

・立場に規定されずに、互いに能力を評価するしくみの必要性（その他・患者支援者）

3) 多様性を認めること

・多様性を認めた上で、多様なニーズに答えていくこと（その他・患者団体ボランティア）

・お互いの役割理解と尊重（がん当事者）
・患者会は多様（ピンキリ）であり、統一させる必要はない（患者会）

・多様ながん患者と家族への情報提供とサポートの必要性（その他・学生）

・患者に対応するには、多様な場、ピア・専門家含めて、多様な対応が求められている

4) パートナーとは何かを考えること

・事業先行でない、パートナーの本当の意味について知ること（医療関係者）

・互いがパートナーである意識を持つとともに、医療者は侵入しすぎず、当事者も依存しすぎないこと（医療関係者）

・棲み分けの必要性（がん当事者）

5) プログラムについて

・互いの人間関係や目標達成のコツを学んでいくこと（がん当事者・医療関係者）

・歩み寄りでなく、問題・課題を露出させることの必要性（その他・企業）

・当事者のニーズに特化したサポート・サービスの必要性（がん当事者）

・ピアだからできることと、ピアだから限界があることを知って生まれるプログラムの意義（その他・患者支援者）

・まだ支援されるべき当事者が、支援者にまわる危険性、その客観的判断ができる立場の人の必要性（専門家・がん当事者・その他・企業担当者）

6) お互いを知る機会を増やすこと

・病院のしくみを患者会が理解し、病院側も患者会を知る努力（医療関係者）

・相談員、当事者だけでなく、医師や看護師が知る機会の必要性（医療関係者）

・医療者側が患者会に関心を持つこと（がん当事者）

・患者（会）側と医療者側がメリット、デメリット、リスクなど相互に認識する機会を持つこと（医療関係者）

・当事者と専門職の相互補完効果」について双方が認識すること（医療関係者）

・互いが互いの活動に参加すること、継続して関わることで新たな関係が生まれる（その他・がん患者会）

D. 考察

今回の試みは、がん対策における当事者と医療者（専門家）が、よりよい医療の提供のために何ができるのか、何をすべきなのかという、議論のはじまりに過ぎない。けれども、パネル・ディスカッションを通して、当事者と医療者のパートナーシップ関係構築のためには、さまざまな患者会の活動を知ること、また、すでに医療者と患者会との関係の構築が進んでいると考えられる HIV 領域の患者支援団体の活動を知ることによって、医療者としてのあり方、患者会としてのあり方、その中でどのように支援プログラムを作り、発展させて行くかについての新たな視点が展開されたと考えられる。

日本においては、まだ心理社会的な情報や支援について、それらを人々が望むときに受けられる環境の整備が不十分であると言わざるを得ない状況である。その解決のためにも、今後、さまざまな心理社会的な情報や支援プログラムの開発が望まれる。そのときに、今回あげられた当事者と専門家の協働のポイントをもとに、お互いがそれぞれの持ち味を発揮したプログラム開発が必要であろう。

E. 結論

今回あげられた当事者と専門家の協働のポイントを踏まえ、今後、さらにがん当事者と医療者がどのようにパートナーシップをとっていくべきなのかについての課題を明確にするとともに、出された課題に関連

するがん当事者と医療者に対する実践的プログラムの開発を行っていく必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

(ア) 論文発表

小野美穂、高山智子、草野恵美子、川田智恵子：病者のピア・サポートの実態と精神的健康との関連—オストメイトを対象に。日本看護科学会誌 27 (4), 23-32, 2007.

(イ) 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

(ウ) 特許取得

なし

(エ) 実用新案登録

なし

(オ) その他

なし

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

●書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
野口海、松島英介	緩和医療におけるリスクマネジメント	保坂 隆	精神科リスクマネジメント	中外医学社	東京	2007	185-190

●雑誌（外国語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Matsushita T, Matsushima E, et al.	Emotional state and coping style among gynecologic patients undergoing surgery.	Psychiatry and Clinical Neurosciences.	61 (1)	84-93	2007
Matsushita T, Matsushima E, et al.	Sense of coherence among patients with cardiovascular disease and cancer undergoing surgery.	Holistic Nursing Practice	21 (5)	244-253	2007
Kuangi Fu, Hideaki Shimizu, et al	Multimodality treatments for nodal relapse after endoscopic mucosal resection of a superficial esophageal squamous cell carcinoma	Endoscopy	39(7)	669-671	2007

●雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
緒方裕光	医療被ばくを受ける患者さんへのリスクマネジメントの要点	医療放射線技術学会雑誌			印刷中
石川睦弓、他	患者・家族のためのがん情報収集法	治療	90 (1)	145-150	2007
山崎むつみ、石川睦弓、他.	家庭医のためのがん情報収集法	治療	90 (1)	137-143	2007
松下年子、松島英介、他	医師のがん告知におけるコミュニケーション	緩和医療学	9 (1)	47-53.	2007
松田彩子、松島英介	放射線治療を受ける癌患者の精神的苦痛	精神科	10 (1)	80-84	2007
松島英介	終末期のがん告知はどのようにすればよいか？	JUNIOR	6 (No. 4 63)	37-41	2007
松下年子、松島英介	婦人科癌から回復した患者の心理とQOL	総合病院精神医学	19 (2)	180-187	2007
藤枝政継、松島英介、他	ホスピスに従事する看護師の悲嘆とその関連要因—バーンアウトとソーシャル・サポートに着目して—	緩和医療学	9 (4)	59-67	2007
石川和穂、松島英介	終末期がん患者と家族介護者による患者のQOL評価の一致の重要性—家族は患者のQOLをどのくらい正確に評価できるのか—	精神科	11 (1)	68-72	2007

小林未果、松島英介	子宮頸がん経験者のQOLについて	精神科	11(3)	245-248	2007
小林真理子、松島英介	母親のがんと子どもの情緒的・行動的問題との関連要因	精神科	11(5)	395-398	2007

IV. 參考資料

相談支援相談員の教育プログラムの開発に関する検討

- 分担研究者 高山智子 (国立がんセンターがん対策情報センター がん対策情報センターがん情報・統計部)
- 研究協力者 大松重宏 (国立がんセンターがん対策企画課研修推進室 研修専門官)
 小郷祐子 (国立がんセンター がん対策情報センターがん情報・統計部/国立がんセンター 中央病院医事第一課相談支援センター)
 井上洋士 (放送大学)

がん対策推進基本計画にある「すべてのがん患者家族の苦痛軽減、及び療養生活の質の維持向上」の実現が急がれる中、がん医療に関する相談支援・情報提供の質に関しても、がん医療そのものと同じように、均てん化が求められている。すなわち、相談対応について、一定以上の質を担保するための教育プログラムの必要性が早急に求められている。そこで、相談員の研修プログラム作成について案の作成とプログラム作成に関わる課題について検討を行った。

また相談支援のあり方を効果的に学ぶためには、講義だけでなく演習形式の学習方法も重要である。そこで今回は演習形式の教育プログラムの検討として、典型的な相談テーマにおける援助のポイントの明確化と、相談支援のプロセスの中で求められる基本的なスキルの再確認を目的としてワークショップを開催し、今後の教育プログラムの課題について考察を行った。

プログラム 1 : がん相談員の研修プログラム

A. 研究目的

がん診療連携拠点病院の相談支援センター相談員として必要な学習課題について検討し、相談員研修プログラムの素案を作成する。

B. 研究方法

米国がん研究所の Cancer Information Service が情報スペシャリスト用に使用している教育モジュールを参考に相談員研修プログラムの素案を作成した。また相談支援センターの現状を踏まえ、今後研修を継続して行っていく上で課題となることについて検討を行った。

C. 研究結果

付録 a、付録 b 参照。

D. 考察

研修・教育プログラムの内容だけでなく、研修の開催場所や研修出席の扱いなど研修を維持するための環境や体制整備についても検討が必要である。また、相談支援について学ぶ意欲といった継続的なモチベーションを維持するための教育プログラムや日々の活動を支援していく体制整備についても今後検討していく必要がある。

プログラム 2：演習形式の教育プログラムの開発

A. 研究目的

相談支援のプロセスとポイントについての考察を通して、相談支援に求められる基本的なスキルを再確認する。

B. 研究方法

1) 対象

テーマに関心のある専門職約 40 名を対象にワークショップを開催した。所属・職種・経験等は特に限定せず参加者を募った。

結果的にみると、看護師・ソーシャルワーカーの参加が多く、経験の浅い者からベテランの者まで幅広い参加が見られた。

2) 方法

がんに関連した相談として寄せられることの多い「セカンドオピニオン」「患者会」「臨床試験」「民間療法」の 4 点をテーマに掲げ、グループワークとロールプレイの手法を用いて議論を深めた。

「セカンドオピニオン」と「患者会」に関しては、ワークショップ企画側が事前に準備した、相談場面のロールプレイをビデオで流し、それを検討材料としてグループでの話し合い、ロールプレイを実施した。

「臨床試験」と「民間療法」に関しては、各グループが 2 つのテーマの内いずれかを担当する形をとり、グループでの討議を通じて、それぞれの相談場面における援助のポイントの明確化を図った。

最後にそれらのポイントを入れ込んだロールプレイの発表と解説をおこない、各グループでの討議内容を全体で共有した。その際、今後の相談支援センター相談員研修プログラム開発上の観点から、参加者の了承を得てビデオ撮影をおこなった。

実施した内容については、付録 c、付録 d を参照。

C. 研究結果

相談支援の基本的なスキルに関して、全体として意見の一致がみられ、重要性を再確認するに至った点としては、ニーズ把握と傾聴に関してであった。

つまり、主訴の裏に存在するニーズを意識しながら、クライアントの話にじっくりと耳を傾けるというプロセスの重要性が指摘されていた。

D. 考察

相談支援に必要とされるスキルは複数ある。その中で、今回のワークショップでは特に、相談者の隠されたニーズも含めたアセスメントとそれに必要な情報を提供することに焦点をあてた。また、平成 20 年 3 月現在 356 カ所のがん診療連携拠点病院の相談支援センターの相談対応の質を一定以上に担保するためには、相談員間で援助のポイントを明確にし、そのポイントを共有し、実際の患者相談に反映させる必要がある。今回のグループワークとロールプレイを取り入れたワークショップは、その点で有効に働いたと考えられる。しかし、一方でアンケートの結果からもワークショップの進め方に関していくつかの課題が明らかになり、今後、プログラム改善に活かしていく必要があると考えられた。以下に、その課題について示す。

1. 事前にワークショップの目的などをまとめる。

(最終的に導き出してもらいたいものは何なのか・全体の流れ・用いる方法 etc.)

2. ファシリテーターを置く。

(1 でまとめた) 目的などを十分把握してもらう。

3. 参加者が共通認識を持てるような場の設定。

(1 でまとめた) 目的などを資料として参加者に配り、ワークショップの最初に解説する時間をとる。

相談支援センター相談員研修プログラム(案)

2007.8.24

■はじめに

がん診療連携拠点病院の整備における相談支援センターには、8つの業務が位置づけられており、相談支援センターは、その相談員が所属する拠点病院内外の患者、家族、および地域の医療機関等からの相談等に対応するという機能を有する必要がある。またそのためには、院内外の医療機関や関連組織とのネットワーク整備も必要である。

ここで作成する「相談支援センター基本テキスト」は、がん診療連携拠点病院の相談支援センターに従事する相談員が、相談支援センター業務を行っていくうえで必要な基本的な知識と技術の習得範囲とその概要について示したものである。したがって、この基本テキストをもとに、個々の相談員が各々の知識や技術の研鑽に務めるとともに、そのような活動をサポートする体制や環境を整備することも必要となる。

ここで示す相談員研修プログラムの全体の目的と対象は、以下のとおりである。

【相談員研修プログラムの全体の目的】

1. 相談支援センター相談員として必要不可欠と考えられる知識とスキルを身につけ、相談支援センター相談員業務を適切に、かつ発展的に遂行できるようにする。
2. 業務を遂行しながら、自己の継続的なスキルアップと成長につなげられる具体的方法への気づきの機会を持てるようにする。

【相談員研修プログラムの対象者】

これまでの相談員の研修会等の統計から、相談支援センターの相談員は、医療福祉系の資格者が約9割を越えており、その中でも看護師と社会福祉士のしめる割合は高くなっている（それぞれ約3～4割、さらに認定看護師などを含めると全体の9割程度）。したがって、この基本研修プログラムでは、これらのバックグラウンドがあることを前提として、どのような医療福祉系の資格をもっていると同様に必要とされる基本的な知識・スキルの向上ができるようなプログラムを作成することとする。

さらに高度な知識やスキルについては、それぞれのバックグラウンドの違いによって求められるものが異なってくると考えられるため、その点については、他の専門学術団体と協力(?)するなどして、継続研修プログラム(2年目以降を想定だが、いつから開始できるかは未定)、に含められるようにしていく。

図 相談支援センター研修プログラムのフローチャート

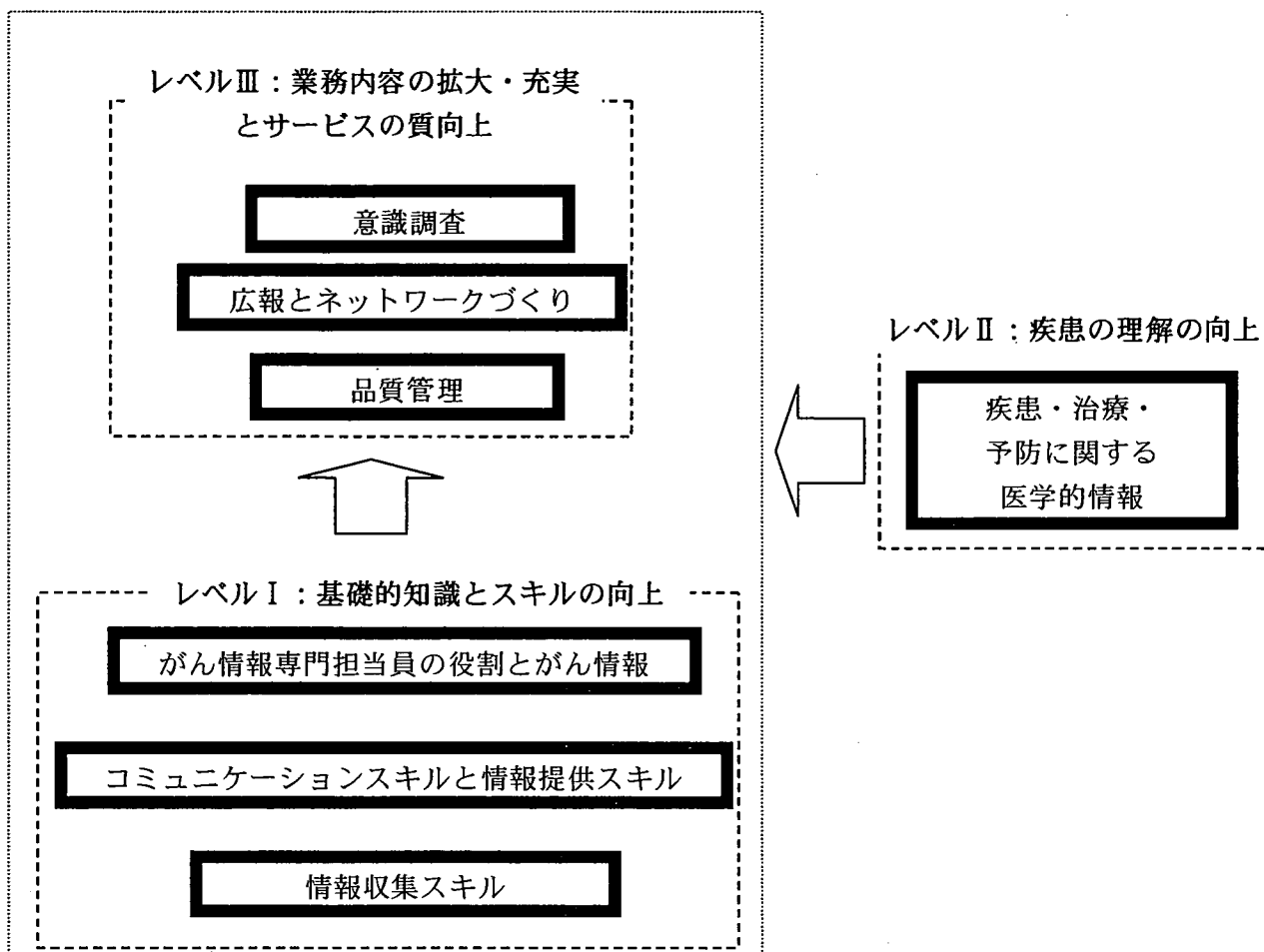


表 相談支援センター研修プログラム科目と相談支援センター相談員業務との対応

	一般医療情報の提供	地域情報収集紹介	セカンドオピニオン	患者療養上相談	意識調査	地域連携事例情報	アスベスト	その他積極的な広報
レベルⅠ：基礎的知識とスキルの向上								
1. がん情報専門担当員の役割とがん情報	●	●	○	●	○	○	○	○
2. コミュニケーションスキルと情報提供スキル	●	●	●	●	○	○	○	○
3. 情報収集スキル	●	●	●	○		●		
レベルⅡ：疾患の理解の向上								
1. 疾患・治療・予防に関する医学的情報	●	○	○	○	○	○	●	
レベルⅢ：業務内容の拡大・充実とサービスの質向上								
1. 意識調査				○	●			
2. 広報とネットワークづくり		●	○		○	●		●
3. 品質管理	●	●	●	●		●		

●：かなり強く対応するもの ○：多少なりとも対応するもの

■研修プログラム案

以下に、研修プログラム案について、レベル 1 からレベル 3 までの 3 つそれぞれに分けて示す。

I. レベル I : 基礎的知識とスキルの向上

<レベル I 全体の目的>

相談支援センターにおいて、看護師・MSW などすでに基盤に持つ知識・技術に加え、がん情報専門担当員としての基礎的知識・スキルを用い、ガンにかかわる人々に寄り添い、その人らしい生活・治療の選択と生き方の創造に向けた情報提供と相談業務ができる相談員の育成をする。

<時間>

2 2 時間

<期間>

2 泊 3 日

<プログラム科目と時間数>

1. 科目 1 : がん情報専門担当員の役割とがん情報

目標 : がん情報専門担当員として相談業務を実施するために前提となる、我が国のがん対策の現状に関する初歩的な知識を身につける。

【科目全体の想定時間】 8 時間

1) がんセンター、がん対策情報センター、相談支援センターの概要

【目的】 がんセンター、がん対策情報センター、相談支援センター各々の概要を知る。

【内容】

- ・ 現行のがん対策情報提供体制を裏付けている法制度（第 3 次対がん 10 年総合戦略、がん対策基本法、がん診療連携拠点病院の整備）
- ・ がんセンター、がん対策情報センター、相談支援センターのミッションと組織、運営
- ・ がんセンター、がん対策情報センター、相談支援センターの業務と機能
- ・ 3 者（特に後者 2 つ）の連携のあり方について
- ・ 我が国のがん対策の現状と課題
- ・ がん登録（院内がん登録、地域がん登録等）の意義
- ・ 諸外国におけるがん対策への取り組み事例（米国のがん情報提供サービスなど）
- ・ ウェブサイトの紹介

【方法】 講義

【想定時間】 3 時間

2) 相談支援センター相談員のがん情報専門担当職としての役割

【目的】 相談支援センター相談員のがん情報専門担当職としての役割を理解し、業務の詳細について把握する。また業務遂行にあたり、自分自身の気づきの重要性を知る。

【内容】

- ・ がん情報専門担当職の行うべき役割・行ってはならない役割

- ・がん情報専門担当職に必要なスキルと責任を持つべき業務
- ・がん情報専門担当職の業務の手順の詳細
- ・がん情報専門担当職としての専門性の成長と発展のための生涯学習機会創出の必要性
- ・がん情報専門担当職の自分自身の気持ちや考えへの気づき (self-awareness) の重要性

【方法】講義、各施設の現状についての参加者による紹介とグループ討議

【想定時間】 3 時間

3) 基本的情報資源の利用法

【目的】相談支援センター相談員が相談業務を実施するうえで必要となる基本的情報資源のありか・アクセスの仕方を知る。

【内容】

- ・がんセンター、がん対策情報センターのウェブサイトのありかと内容、アクセスの仕方
- ・がんセンター、がん対策情報センターのスタッフによって使われている、役に立つウェブサイトのありかと内容、アクセスの仕方
- ・情報ツールとして役立つ出版物（オンライン・バージョンを含む）のありかと内容、入手の仕方
- ・治療ガイドラインやファクトシート、薬剤情報、臨床試験情報の探し方
- ・研究データの探し方
- ・E-mail のさまざまな使用法の基本的な理解
- ・信頼できる情報かどうかの区別の仕方

【方法】講義と演習（データ検索と e-mail 使用法）

【想定時間】 2 時間

2. 科目 2 : コミュニケーションスキルと情報提供スキル

目標：相談員として相談業務を実施するために必要となる能力、スキル、態度を身につける。

【科目全体の想定時間】 9 時間

1) がんの心理的・社会的な側面

【目的】がん患者の心理的・社会的な特性について基本的理解を深め、これらを踏まえて相談業務を遂行できるようにする。

【内容】

- ・がんに関する一般的な俗説
- ・がんの経験の特徴
- ・がんの患者と彼らを愛する人々の直面する問題
- ・がんの患者と彼らを愛する人々が経験する喪失
- ・がんのリスクが高い人々が直面する問題

【方法】

- ・講義

【想定時間】 2 時間

2) コミュニケーションスキル

【目的】クライアントに対して、適切に情報提供するためのコミュニケーションスキルと技術を身につける。

【内容】

- ・コミュニケーションとは何か。
- ・情報提供チャンネルにより異なるコミュニケーションスキルと組み立て方
- ・対面での相談業務の構成要素（始まり、主部、結び、フォローアップ）とコミュニケーション（相談者との係り開始、傾聴、相談者のタイプの特定、信頼性の構築、理解の確認など）
- ・電話、e-mail それぞれ特有の情報提供の構成要素とコミュニケーション上の留意点
- ・ニーズを詳細に評価する方法（「質問すること」「明確にすること」「評価すること」）
- ・その他の重要なコミュニケーションスキル

【方法】講義

【想定時間】 3 時間

3) 情報資源と紹介

【目的】クライアントの求めに対し情報資源を用いて情報提供したり、紹介先を教えたりする方法と手順を身につける。

【内容】

- ・相談者やパートナーの質問に応じた情報検索方法：演習
- ・相談者やパートナーに対しての、適切な情報資源の提供方法
- ・相談者やパートナーに対しての、紹介先の適切な提供方法
- ・相談者やパートナーと情報について議論をすることの有用性と限界

【方法】

- ・講義
- ・演習（仮想事例に基づく、ニーズの評価・コミュニケーション・情報提供のロールプレイ）

【想定時間】 5 時間

3. 科目 3 : 情報収集スキル

目標：相談員としての相談業務を実施するために必要となる情報の収集能力、スキルを身につける。

【科目全体の想定時間】 5 時間

1) データ収集

【目的】相談支援センター相談員の情報収集の重要性を理解し、その手法を学ぶ。

【内容】

- ・なぜデータ収集をするのか
- ・収集すべきデータ
- ・データ収集の手法（プロセス）
- ・データ収集のツール
- ・適切なデータ収集ツールの使い方

【方法】

- ・講義

【想定時間】 2 時間

2) 地域・生活関連情報の収集

【目的】地域の医療機関や医療従事者、福祉制度、生活資源に関する情報を収集し、それらを提供できるようにする。

【内容】

- ・ 情報収集の手法（情報の収集方法、まとめ方、公開方法、地域資源データベースの作成など）
- ・ 地域情報提供の際の留意点
- ・ 地域情報のタイプ

地域の病院情報、地域の病院以外のサービス情報、地域独自のがん対策、医療保険制度（高額療養費制度などを含む）、介護保険制度（がん末期の介護など）、その他、公的助成制度（障害者自立支援法、小児慢性特定疾患治療研究事業など）、地域における生活支援の資源の把握とその活用（患者会、在宅ケア、リハビリテーション等）、その他のがんに関する資源

【方法】

- ・ 講義

【想定時間】 2 時間

3) セカンド・オピニオン

【目的】セカンド・オピニオンについての理解を深め、セカンド・オピニオンについてのクライアントへの対応ができる

【内容】

- ・ セカンド・オピニオンとは何か。
- ・ がん診療におけるセカンド・オピニオンを得る意味
- ・ セカンド・オピニオンを薦めたり受診してもらったりする際の留意点
- ・ 各種がん毎に、セカンド・オピニオン対応医師についての情報の収集・公開の仕方

【方法】

- ・ 講義

【想定時間】 1 時間

Ⅱ. レベルⅡ：疾患の理解の向上

<レベルⅡ全体の目的>

相談支援センター相談員の業務をより専門的に遂行するために、また継続教育の契機とするために、すでに修得している基礎的知識・技術に加え、がんの病態、標準的治療法、最新の治療法など、がんの治療・予防に関する理解を向上させ、それらをもとに、ガンにかかわる人々がインフォームド・デシジョンする際に支援ができる相談員の育成をする。

<時間>

17時間

<期間>

2泊3日

<プログラム科目と時間数>

1. 科目1：がん治療・予防に関する医学的情報

目標：各種がんの病態、標準的治療法等がん診療に係る一般的な医療情報を提供できる。

【全体の想定時間】18時間

1) がん病態概論

【目的】がんの病態について、基本的理解を深める。

【内容】

- ・がん発現のプロセス
- ・がんの進行と転移のプロセス
- ・どのように腫瘍が分類されるか
- ・がん遺伝子の分類

【方法】講義

【想定時間】1時間

2) がん臨床腫瘍学概論

【目的】がん臨床腫瘍学の基本的な知識を深める。

【内容】(要確認)

- ・がん薬物療法の基本概念
- ・感染症対策
- ・消化器症状に対するアプローチ
- ・抗がん剤の投与方法・調整方法

3) 緩和医療と緩和ケア概論

【目的】緩和医療と緩和ケアに関する基本的な知識を深める。

【内容】(要確認)

- ・緩和ケアチーム
- ・がん患者の苦痛と評価
- ・症状緩和と副作用

- ・ 症状緩和に対する非薬物的アプローチ
- ・ スピリチュアル・ペイン
- ・ 家族とのコミュニケーション

4) 精神腫瘍学概論

【目的】精神腫瘍学に関する基本的な知識を深める。

【内容】(要確認)

- ・ がんによるストレス
- ・ ストレス・コーピング
- ・ がんの発症・予後と心理社会的要因
- ・ . . .

5) がん予防、早期発見、診断

【目的】がん予防、早期発見、診断について、基本的理解を深める。

【内容】

- ・ がん予防における疫学の役割
- ・ がんのリスクファクター
- ・ がん予防の一般的な戦略
- ・ 予防の障害
- ・ 早期発見の意味と目的
- ・ 早期発見に使われる検査
- ・ 早期発見の文化的な障壁
- ・ 日本におけるこれらの特徴
- ・ 予防臨床試験の種類
- ・ がんの診断のために使われる身体的検査、臨床検査、撮影法、生検の技術
- ・ 腫瘍のグレードと、がんのステージ
- ・ がん予防、検査、診断のための資源
- ・ がん予防、早期発見、診断についての情報提供の際の留意点

【想定時間】 2 時間

【方法】 講義

6) がん治療

【目的】各種がんの標準的治療法その他、高度先進医療、緩和医療に関する基礎的な知識を修得し、それらを相談時に提供することができるようにする。

【内容】

- ・ がん治療の標準的治療法
- ・ 化学療法
- ・ 放射線療法
- ・ ホルモン療養
- ・ 骨髄移植
- ・ 手術

- ・緩和ケア
- ・代替療法
- ・がん治療についての情報提供の際の留意点

【方法】講義

【想定時間】 3 時間

7) 臨床試験

【目的】がん治療の臨床試験に関する基礎的な知識を修得し、それらを相談時に提供することができるようにする。

【内容】

- ・臨床試験はどのようにして実施されるか
- ・臨床試験によってガン治療法はどのように進歩するか
- ・臨床試験でどのように参加者は守られるか
- ・臨床試験の障害
- ・臨床試験へ参加すること
- ・臨床試験についての情報提供の際の留意点

【方法】講義

【想定時間】 2 時間

8) 乳がん

【目的】乳がんに関する基本的な知識を修得し、それらを相談時に提供することができるようにする。

【内容】

- ・乳がんの疫学
- ・解剖と生理
- ・原因と予防
- ・スクリーニング、症状、診断
- ・分類、病期、治療
- ・乳がんについての情報提供の際の留意点

【方法】講義

【想定時間】 2 時間

9) 血液腫瘍、悪性リンパ腫

【目的】血液腫瘍、悪性リンパ腫に関する基本的な知識を修得し、それらを相談時に提供することができるようにする。

【内容】

- ・血液学と免疫システム
- ・白血病
- ・悪性リンパ腫
- ・形質細胞腫・その他の血液学的不全
- ・血液腫瘍、悪性リンパ腫についての情報提供の際の留意点

【方法】講義

【想定時間】 2 時間

10) 起こりやすい身体症状・精神症状

【目的】がんやがん治療によって起しやすい身体症状・精神症状に関する基本的な知識を修得し、それらを相談時に提供することができるようにする。

【内容】

- ・化学療法の副作用
- ・脱毛
- ・嘔気・嘔吐、食欲不振
- ・疼痛
- ・疲労感
- ・下痢
- ・皮疹等皮膚のトラブル
- ・口腔内のトラブル
- ・ケモブレイン
- ・身体症状・精神症状についての情報提供の際の留意点

【方法】講義

【想定時間】 3 時間

11) アスベストによる肺がん及び中皮腫

【目的】アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する基本的な知識を修得し、それらを相談時に提供することができるようにする。

【内容】

- ・アスベストが原因で発症する疾患とその症状
- ・建築物（事務所、店舗、倉庫等）とアスベスト
- ・検診の受け方・検査法・相談窓口
- ・石綿工場周辺の住民など、環境と中皮腫や肺がんの発症との関連性
- ・健康管理手帳制度・労災認定
- ・アスベストによる肺がん及び中皮腫についての情報提供の際の留意点

【方法】講義

【想定時間】 2 時間

Ⅲ. レベルⅢ：業務内容の充実とサービスの質向上

<レベルⅢ全体の目的>

相談支援センター相談員が行うべき業務を余すことなく遂行し、さらにガンにかかわる人々にサービスを幅広く知ってもらうことで利用者の幅を広げ、またサービスの質をも維持・向上するために、必要となるスキルを身につけ、専門性を発揮し役割モデルとなりうる相談員の育成をする。

<時間>

20 時間

<期間>

2 泊 3 日

<プログラム科目と時間数>

1. 科目 1：意識調査

目標：地域における患者、医療機関、かかりつけ医等を対象とした意識調査が適切にできる。

【全体の想定時間】 5 時間

1) 意識調査の実施方法

【目的】意識調査の企画、実施、評価の基本的知識とスキルを修得し、実践できるようにする。

【内容】

- ・意識調査の考え方
- ・意識調査の企画の仕方
- ・調査実施方法
- ・統計ソフトの使い方
- ・データ分析方法
- ・結果のまとめ方
- ・結果の提示の仕方、報告書の書き方
- ・意識調査の企画・実施における留意点

【方法】

- ・講義
- ・演習（意識調査の企画作成、統計ソフト演習）

【想定時間】 5 時間

2. 科目 2：広報とネットワークづくり

目標：情報サービスを必要としている人々に対して、必要な情報と相談を提供できるようにするための、具体的戦略を立てることができる。

【全体の想定時間】 9 時間

1) 広報の手法

【目的】広報について、具体的な手法を修得し、各相談支援センターに合った手法を選択して